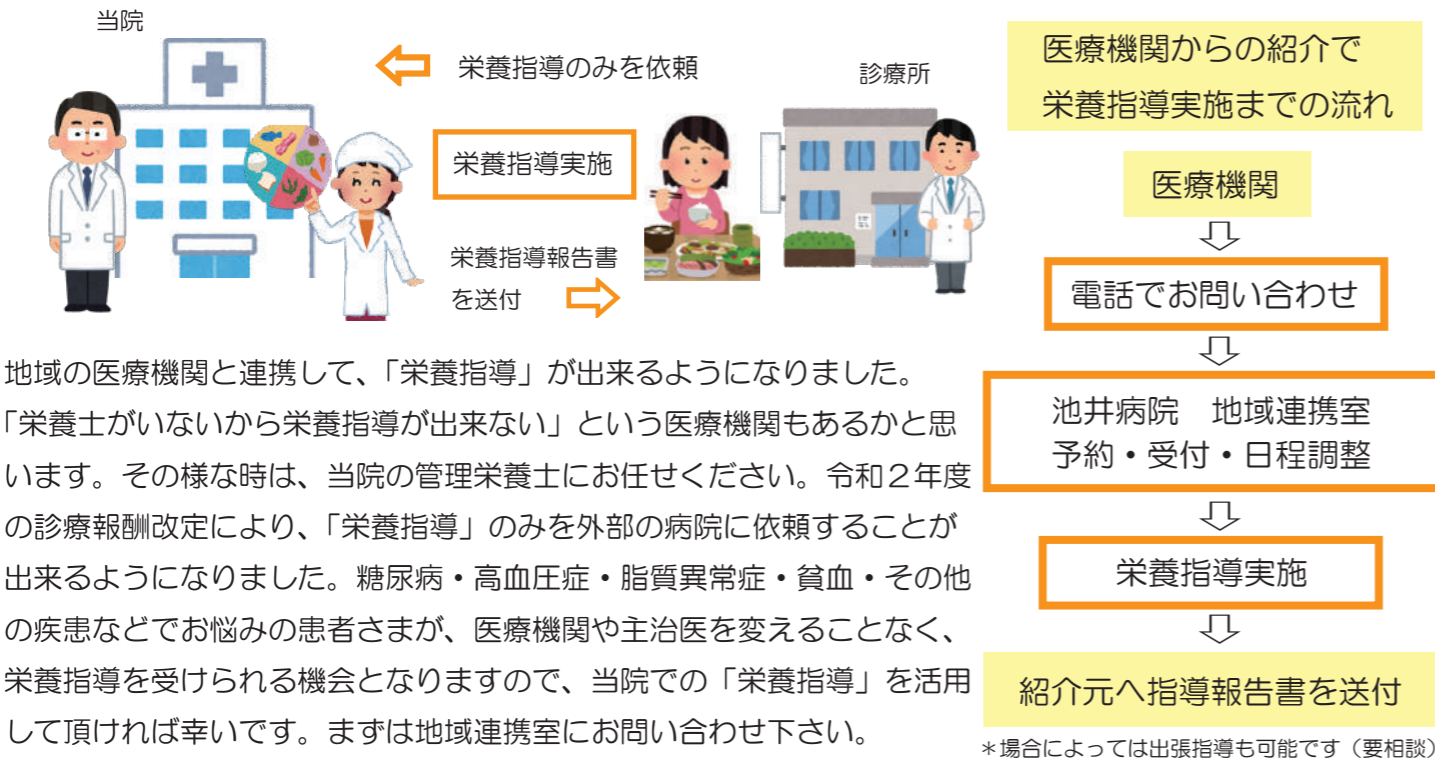




当院で栄養指導のみを受けることができるようになりました！



委員会活動の紹介

安全衛生委員会 第1弾!

スタッフが心身共に健康維持・増進に繋がるようなユニークな取り組みを年間を通して企画しております。

【スラリンピック】

現在オリンピックイヤーにちなんだダイエットイベント『スラリンピック』を開催中です。管理栄養士による栄養指導とリハビリスタッフによる運動指導を受けながらダイエットに取り組みます。期間は3ヶ月。最後は体組成測定と採血の結果、数値が改善されたスタッフを金メダルに決定します。

【サンクスカード】

サンキューにちなんで3・9月に実施しています。スタッフ同士で嬉しかったこと・助かったことなど感謝の気持ちをカードに込めてポストに投函します。半年で届くカードは約500枚!

【階段ポスター】

通年掲示しています。豆知識・偉人の名言・階段利用での運動効果・季節の風景など『次の階は何だろう?』と思わず登ってみたくするような階段を目指しています。日々の運動量を少しでも増やして、体力UP! 身体機能UP! に繋がれば嬉しいです。

Facebook をポスターに!!

来院される方にも直接お届け♡

池井病院では、毎週火曜日と金曜日に Facebook を更新しています(*^▽^*) 1週間に2回発信している情報を、池井病院に来院されている患者さまに直接見て頂きたい! という思いからポスターにして本館1階に掲示していますので、来院された際にはぜひご覧ください。「デジタルで見る派」の方は、ホームページとFacebookのQRコードからご確認ください(=^ω^=)!!

ホームページ QR コード

Facebook QR コード

養生会通信 vol.13



紹介受診の窓口・地域連携室の役割

医療機関からの紹介受診や入院依頼・転院など、医療連携の窓口として、地域連携室を設置しています。当院の特色や機能を活かして、ご紹介いただいた患者さまの診療がスムーズに行えるよう、今後とも地域の医療連携強化に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。また2020年には連携室に入退院支援センターを併設しました。入院後の治療、療養生活のイメージ化を図り、患者さまとご家族が安心して入院前から医療に参画できるように支援することを目標に取り組んでおります。

地域連携室
入退院支援センター
直通電話番号
0984-24-0115
*ご不明な点がありましたら遠慮なくご連絡ください。

〈室長〉池井義彦(院長) 〈MSW〉東美代子
〈看護師〉内村佳代・内村久子・田浦美香(退院支援)

【紹介受診の流れ】

【1】初診申込書(HPよりダウンロード)診療情報提供書、検査データをFAXにて地域連携室までお送りください。
FAX 番号 0984-24-0119
*今回の広報誌に初診申込書を1部折り込んでおります。

【2】当院でのご予約をお取りいたします。
(非常勤医師の受診予約につきましては、お返事まで日にちをいただいております)

【3】紹介元医療機関様へFAXで予約票をお送りいたしますので、患者さまにお渡しください。

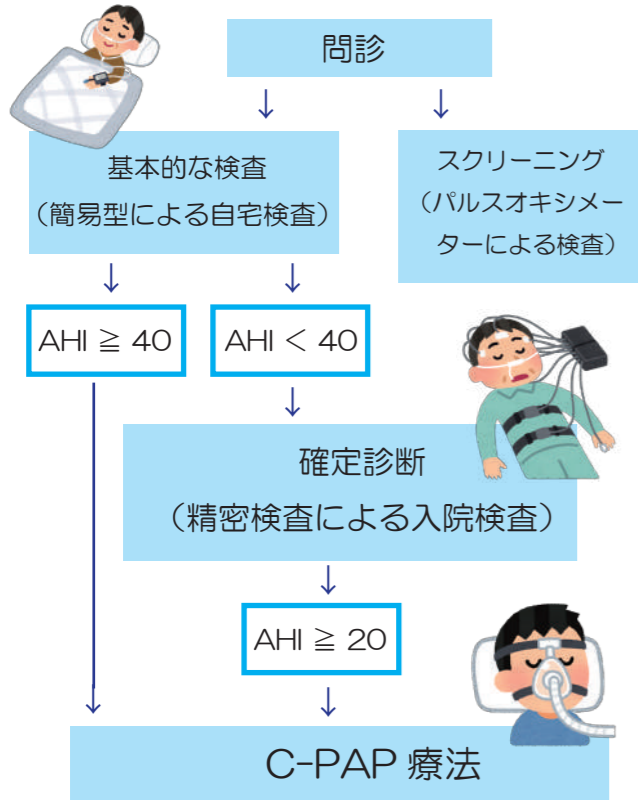
【4】予約当日、予約票と紹介状(原本)をご持参の上、患者さまが当院を受診されます。

今年の夏は雨の日が多く、心と気がつくとも空は高くなり、朝晩は涼しく、秋の気配を感じるようになりました。この広報誌を読まれている頃には、キンモクセイの香りがする頃でしょうか。当院は100周年を迎え、これまで多くの先輩方、地域の方々が紡いできた歴史を思うと、一日一日の大切さを感じます。何かしらの縁があって、人や出来事と出会うものなののでしょうか。連携業務に携わる私たちは、相談者との対話や時間を大切にすることを大事に役割を担っていきたいと思います。これからも地域の方々から愛される医療機関として歩んでいきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。地域連携室 東美代子

睡眠時無呼吸症候群の検査ができます！

(SAS: Sleep Apnea Syndrome)

< SAS 検査から治療までの流れ >



SASとは、睡眠中に10秒以上呼吸が停止する、もしくは通常の呼吸量が10%以下に停止することをいいます。高血圧症、多血症、不整脈、虚血性心疾患、心不全、脳血管障害、糖尿病などのリスクを高め、日中の眠気、作業効率の低下、居眠り運転事故や労働災害の発生を高めたりするなど、社会生活に重大な悪影響を引き起こします。SASは、肥満の人に多いことはよく知られていますが、扁桃肥大・口蓋垂が長い・舌や軟口蓋の肥大・首が短くて太い・下顎が小さく後退している（特に、日本人を含むアジア人）などは、気道が狭く閉塞しやすい身体初見です。

*SASの主な症状

入眠時：いびきをかく、夜間の呼吸停止、呼吸が乱れる、呼吸苦で覚醒する
 何ども覚醒しトイレへ行く
 覚醒時：起床時の頭痛・だるさ、強い眠気を感じる、しばしば居眠りをする、
 記憶力や集中力が低下する、全身倦怠感・疲れが取れない

*診察日時

毎週、(月)(水)(木)曜日 予約制ですので、事前に電話予約をお願いします。
 ☆検査内容により費用が異なりますのでご相談ください。

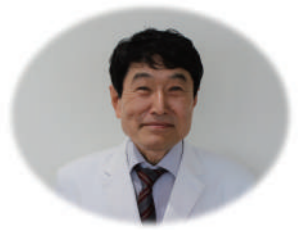
< SAS 検査から治療までの流れ >

当院にてエスワープ眠気尺度 (ESS) などの問診をし、簡易型により自宅検査を実施します。その結果、無呼吸低呼吸指数 (AHI) ≥ 40 で C-PAP 療法導入となります。AHI < 40 でも、SAS が疑わしい時には、1泊入院し、精密型による検査 (PSG 検査) を実施し、AHI ≥ 20 で C-PAP 療法開始となります。

大塚先生の診察室！

第3回

一般内科・循環器内科 大塚伸昭医師



2020年4月から一般内科、循環器内科外来を担当しています。昭和53年に鹿児島大学を卒業後、宮崎医科大学第1内科に入局しました。宮崎大学開設5年目でしたので、医局員は20名不足でした。第1内科循環器グループは今は大所帯ですが、当時は私を含めて僅か3名でした。心臓カテーテルを器用に扱う事で、『神の手』と一部の後輩から呼ばれていました。急性心筋梗塞に対する最初のカテーテル治療はウロキナーゼと呼ばれる血栓溶解剤を直接カテーテルから冠動脈内注入する方法でした。大学病院で、この治療を、術者として宮崎県では最初に行いました。閉塞していた冠動脈がウロキナーゼ注入により再開通して、造影剤が冠動脈全体に流れていくシーンは今でも鮮明に記憶しています。実に感動的な瞬間で、再開通と同時に患者さんが「先生、胸の痛みが軽くなりました！」と言われたのははっきりと覚えています。現在は、心臓カテーテル治療には携わっていませんが、慢性心不全など心疾患の患者さんや、高血圧など一般内科の患者さんの治療に携わっています。心臓に限らず、診断名が付いていない病気で悩んでいらっしゃる方は、お気軽に私の診察室を訪れてください。

透析室にフットケア指導士が在籍しています

Q1: フットケアの資格を取得されたのはいつ頃ですか？

A: 2010年の5月に、糖尿病療養指導士の資格を取得した後、フットケアの必要性を感じ、2017年4月に「フットケア指導士」(日本フットケア学会認定)の資格を取得しました。患者さまのために、もっと学びたい気持ちが強くなり、足爪補正士の資格も取得しました。

Q2: フットケアの資格を取ろうと思ったのは、何かきっかけがあったのでしょうか？

A: 透析に来られていた患者さまが、重症下肢虚血による大切断をされた時の体験がきっかけです。もっと勉強して、自分たちのスキルを上げて、早めのケアを常に心掛けていけば、切断を防ぐことが出来ると思ったからです。

Q3: 実際にフットケアをしてみて、患者さまはどんな反応でしたか？

A: シャボンラッピングというケア方法があるんですけど、バケツ一杯のたっぷりの泡で足をやさしく洗って、爪までしっかりケアした後などは、とっても喜ばれて、「舅さん、またやってください」とか、「自分でも足をよく観察するようになりました」と言って下さるので、私も嬉しいです。

Q4: フットケアをする時に心掛けていることを教えてください。

A: 透析に来ている間に、私たちがしっかりケアしていくのはもちろんなのですが、患者さまのためを思えば、透析に来ていない日にも、患者さまやご家族が、足先までのケアを自宅でも心掛けて頂けると、いい状態がずっと保てるので、ご自身でもケアが出来る簡単な方法を、分かりやすくお伝えしています。足に関する相談には、なんでも答えられるよう、これからも勉強を続けていきます。



透析室看護師
寛 明喜代

← 広報誌取材班がインタビューしてきました！



呼吸器リハを始めました！

呼吸器リハビリテーションは、呼吸器疾患をもつ患者さまの健康状態を回復・維持することによって症状を改善し、自立した日常や社会生活を送れるように継続して支援していく治療方法です。評価として、運動耐容能の試験、筋力評価、筋肉量の測定、ADL 評価等を行い、コンディショニング(呼吸法の練習やストレッチ、排痰療法等)、運動療法(筋力トレーニング、全身持久カトレーニング)、ADL トレーニング等を訓練として実施していきます。リハビリテーションによって呼吸が楽になることで、活動範囲が広がり、QOL(生活の質)が向上していきます。呼吸ケア指導士を目指して研修へ積極的に参加し、地域の皆さまの健康面のサポートを行っていききたいと思います。



リハビリ室長 村永雅也

令和3年6月より、呼吸器内科の富山医師指導の下、呼吸器リハビリテーションを開始しました。当院では、COPDなどの呼吸器疾患、特に誤嚥性肺炎の患者さまに、呼吸器疾患後に発症した廃用症候群に対して、筋力訓練を中心としたリハビリテーションを行っていました。現在は、呼吸器疾患そのものに対して、専門的治療が行えることに加え、より早期から患者さまへ介入することにより廃用症候群の予防にもつながっています。今後は、一人でも多くの患者さまに元気になってもらえるよう、リハビリテーション室一同努力していききたいと思います。